

パネルディスカッション

記録は、保育を 育てているか？

— 子どもを見る力を園全体で問い直す —

上：玉川大学教育学部 教授 大豆生田 啓友

左：社会福祉法人湘南福祉センター 平塚保育園 上田 理恵

右：株式会社ベネッセスタイルケアグループ Kids & Family事業本部 酒井 あすか

企画：株式会社ベネッセスタイルケアグループ



連携セッション



アジェンダ

時間	内容
11:10~	セミナー概要・登壇者紹介
11:15~	「記録は、保育を育てているか？」(大豆生田先生)
11:25~	きのこのブームから ～子どもの姿が見えてくる保育記録 事例～ (平塚保育園 上田先生)
11:35~	パネルディスカッション
12:05~	まとめ(大豆生田先生)

登壇者紹介



玉川大学教育学部 教授
大豆生田 啓友先生

日本保育学会副会長、日本こども環境学会理事、こども家庭庁「こども家庭審議会」委員および「幼児期までのこどもの育ち部会」委員(部会長)、文部科学省「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会(2024年度)」委員、よこはま☆保育・教育宣言運用協議会委員、NHK・Eテレ「すくすく子育て」出演、テレビ静岡「テレビ寺子屋」出演、等



社会福祉法人湘南福祉センター 平塚保育園
上田 理恵先生

2001年 湘南福祉センター入職、主任、副園長後、2019年より園長を務める。日々、職員と共に保育を楽しみ、職員が働きがいの持てる職場作りに努めている。

アジェンダ

時間	内容
11:10~	セミナー概要・登壇者紹介
11:15~	「記録は、保育を育てているか？」(大豆生田先生)
11:25~	きのこのブームから ～子どもの姿が見えてくる保育記録 事例～ (平塚保育園 上田先生)
11:35~	パネルディスカッション
12:05~	まとめ(大豆生田先生)

園長カンファレンス2025

記録は、保育を育てているか？

－子どもを見る力を園全体で問い直す－

大豆生田啓友(玉川大学)

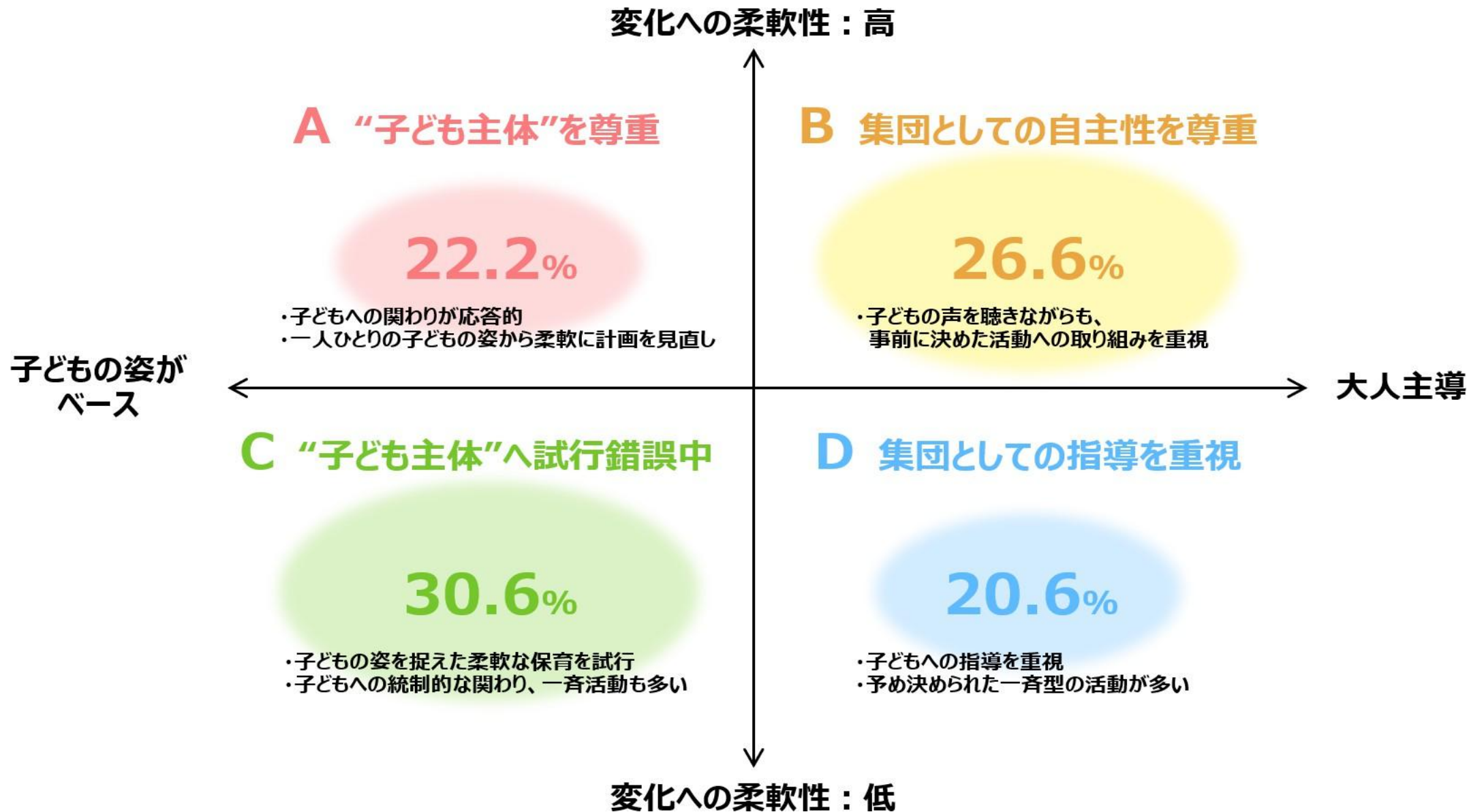
記録に対する悩み

- 記録を書く時間がなかなか取れない。
- 形式的な提出物になりがちで、事務的負担感が高い。
- つまり、保育の質向上に役立っているという実感が現場で得られていない。
- そもそも、記録をどのように保育に活かしたらよいのかわからないし、時間も取りにくい。
- 記録を保育の質向上に活かすためのポイントは？
- 記録を使って振り返りや対話に活かすことが大切なのはわかっているが、どのように活かしてよいかわからない。

そもそも、いま、求められる保育とは？

- 待機児童（量的拡大）時代から、保育の質的向上の時代へ。
- 少子化、保育者採用困難という課題
- 不適切な保育という社会問題
- 「はじめの100か月の育ちビジョン」（乳幼児期はウェルビーイングの重要な時期、すべての子どもが権利の主体者）
- 子ども主体の質の高い保育が重視される時代
- そのための職場風土の形成、そのマネジメントが鍵

多くの園が、「子ども主体」の保育を模索



1. 保育所等における保育の質の基本的な考え方

我が国の保育所保育の特色
(遊びの重視・一人一人に応じた関わりや配慮・子ども相互の育ち合い等)

保育の現場において求められること
(保育所保育指針の理解と実践、職員間の連携・協働やマネジメント等)

保育の質は、子どもが得られる経験の豊かさと、それを支える保育の実践や人的・物的環境など、多層的で多様な要素により成り立つ。
(保育の質を捉えるに当たり、「子どもにとってどうか」という視点を基本とする・一定の水準で保障すべき質と実践の中で意味や可能性を追求していく質の両面がある・様々な文脈や関係性を考慮することに留意)

2. 保育実践の質の確保・向上に向けた取組のあり方

保育の質の確保・向上に向けた取組が実効性あるものとなるよう、関係者が共通理解を持って主体的・継続的・協同的に改善・充実を図ることが重要。

① 保育所保育指針を共通の基盤とした取組

- 評価・研修等様々な取組を、関係者間で理解を共有し一貫性をもって実施

② 組織及び地域全体での取組

- 保育士一人一人の主体的・継続的な参画と、そのための職場の環境づくり
- 地域において、各現場のリーダー層や職員が互いに学び合う関係の形成

③ 多様な視点を得る「開かれた」取組

- 現場間で保育士等が互いに保育を見合い文話する機会の充実・促進
- 保育に関する様々な立場からの多面的・多角的な検討の実施・普及

④ 地域における支援人材の確保・育成

- 現場を支持的・協同的に支援し、地域的な取組の中核を担う人材の配置

⑤ 地域の取組と全国的な取組の連動

- 現場の保育士等と地域の学識経験者等が協同的に関わる取組の実施
- 各地の事例や意見等を全国的に検討・協議する仕組みの構築

3. 今後の展望

今後、保育の質の確保・向上に向けた一連の取組を進めるに当たっては、国や地方自治体において、以下の施策を行うことが重要

- 保育所保育に関する理解を広く促進するための周知・啓発
- 「保育所における自己評価ガイドライン（2020年改訂版）」に基づく保育内容等の評価の充実
- 地域におけるネットワークの構築推進
- キャリアアップ研修等、保育士等の資質・専門性向上の機会の確保・充実
- 関係者間の情報共有・意見交換の場づくり

- **保育所における自己評価ガイドライン（2020年改訂版）**の活用にあたって、各保育所が自己評価の取組を行う際の具体的な留意点や工夫例について、ガイドラインの改訂内容の検討にあたって保育の現場から得られた知見等を踏まえ記載。

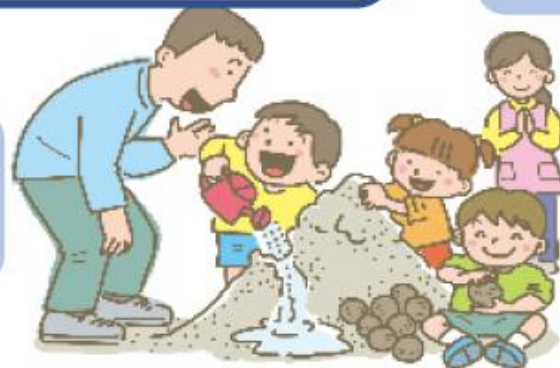
1 未来の保育実践 を考えるための「評価」



2 自己評価の実施にあたって 大切にしたいこと

自己評価の基盤となる
「子どもの理解」

日々の保育に**手応え**
が生まれ、保育がよ
り**楽しくなる**評価に



互いに**肯定的な理解**
と**評価**ができる
職場の環境づくり

3 取組を進めていく際のポイント

明日の保育に向け
た日常的な記録・
計画の活用



既存の評価項目を
用いる際の
留意点と工夫



会議やミーティン
グの工夫



園長・主任の役
割

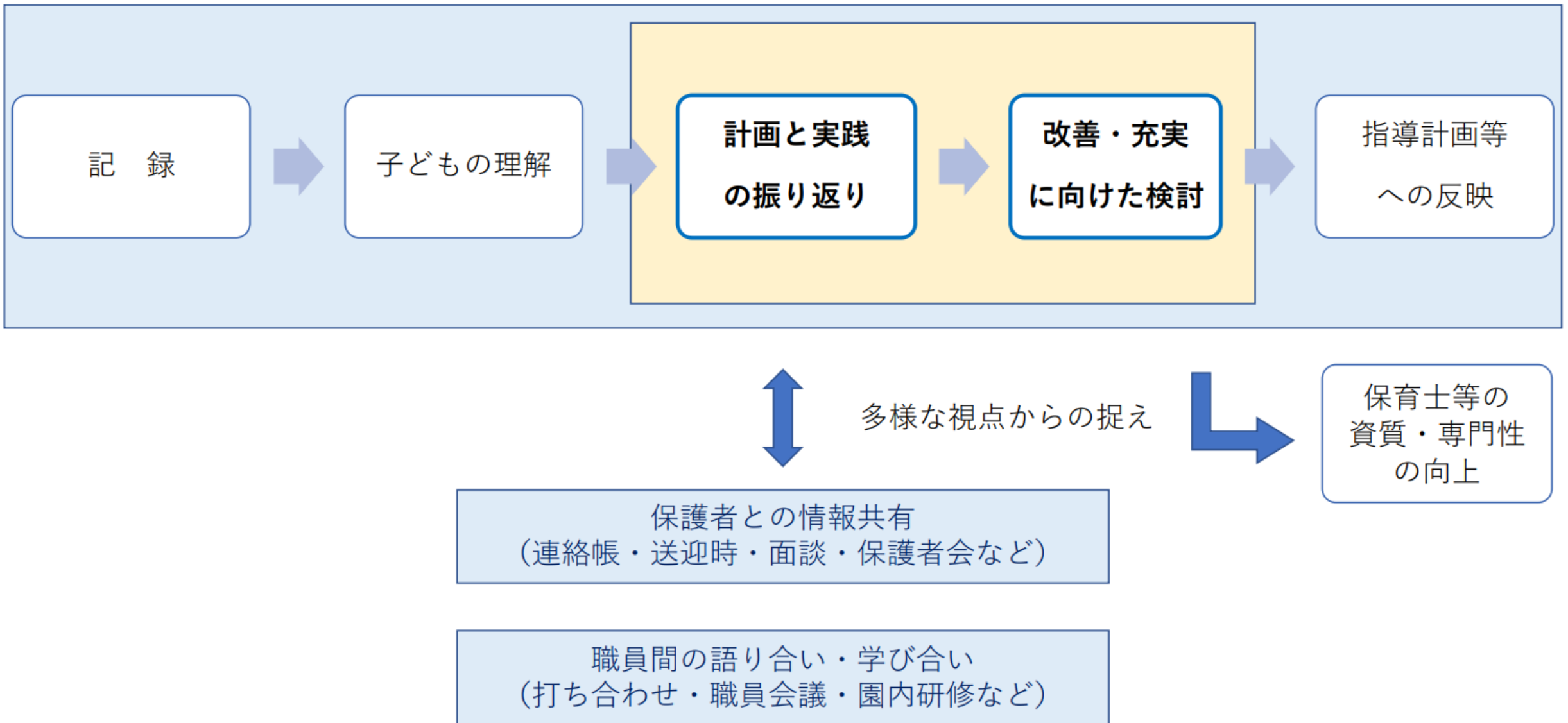


保護者や地域
との連携

園内・外部研
修や評価など
の活用

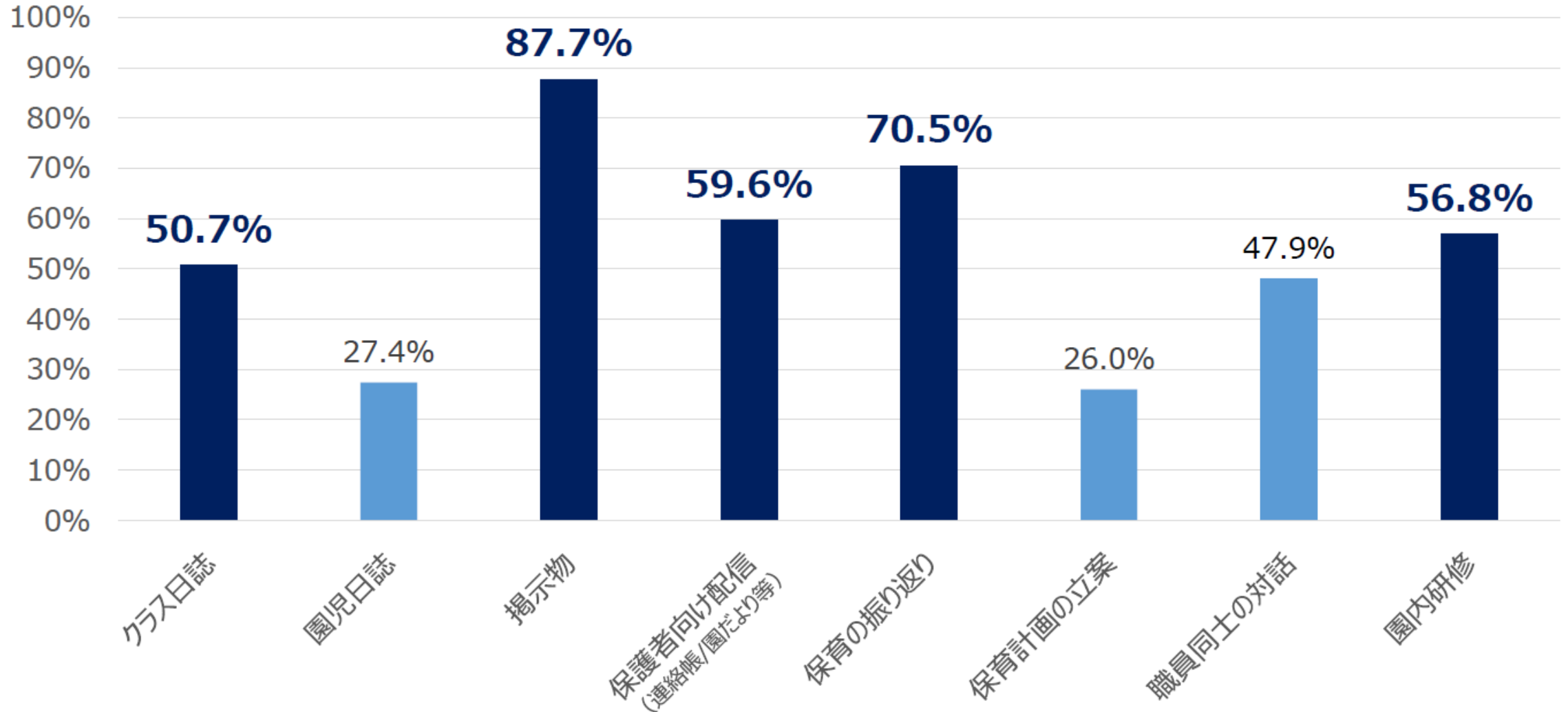


保育士等が行う保育内容等の自己評価の流れ



「子ども主体」を実践している園では、ドキュメンテーションを**多目的に利用**

ドキュメンテーションの活用例



アジェンダ

時間	内容
11:10~	セミナー概要・登壇者紹介
11:15~	「記録は、保育を育てているか？」(大豆生田先生)
11:25~	きのこのブームから ～子どもの姿が見えてくる保育記録 事例～ (平塚保育園 上田先生)
11:35~	パネルディスカッション
12:05~	まとめ(大豆生田先生)

湘南福祉センター 平塚保育園

- ・所在地: 神奈川県平塚市
- ・分類: 認可保育園
- ・対象年齢: 0歳児～就学前(定員: 135人)



ドキュメンテーションの活用

- ◆ 2020年からドキュメンテーションを活用
- ◆ 日誌として記録

ドキュメンテーションの活用

- ◆ 2020年からドキュメンテーションを活用
- ◆ 日誌として記録

5歳児のドキュメンテーション

ドキュメンテーションの活用

- ◆ 2020年からドキュメンテーションを活用
- ◆ 日誌として記録

5歳児のドキュメンテーション

「きのこ」のブームから・・・

園外保育時に「きのこ」を発見！ そこから「きのこ探検隊」が発足。

たんぽぽ

キノコ探検隊 🍄

2024年10月10日（木）



八幡山公園にもキノコが…「ん？あれ！？」



「キノコだ～！！」



なんと、ここでもキノコを発見！ここからさらにキノコ探しの始まり。あらゆるところの木を見て回ります。



キノコ探しをしていると…一つの木に出会いました。「この木…なんか傷だらけだよ」「こんな傷、固い爪じゃないとできないよね？」

キノコが食べられた！？



恒例のキノコ探し。しかし…「巨大なキノコがなくなってる！！」



「虫に食べられたんじゃない？」



「こっちの木はどうか？」「あれ？木に穴が開いてる…」
「もしかして、この公園にリスがいる！？」

巨大なキノコを食べたのは…虫なのか？それとも、リスなのか？公園に落ち葉がたくさんあること、ドングリがたくさん落ちていることから「やっぱりリスだ！」とお子さんたちは考えたようです。

キノコ菌が馬入公園に…！？



公園に行く前から計画していたキノコ探し。ここでもキノコに出会い、お子さん達からこんな面白い疑問が…



「キノコができるってことはこの木にキノコ菌が付いてるんじゃない!?」「まさかこの粉が（木をつつくと出てくる粉のようなもの）がキノコ菌!?」と、キノコ菌に話が盛り上がります。



そして…お子さん達の“もしかして”を試してみることにしました!



土と水と



子どもの興味・関心から

キノコ会議～食べられるキノコ～



園外先でキノコを見つけると、「食べられる?」「触ってみたい」と思わず心が動くお子さんたち。保育士や図鑑から聞いて、調べて、知ろうとする姿から“キノコ会議”を行っています。お子さんたちは今、自分なりの「なんで?」「どうして?」にたくさん出会っているところです。

触ってみたい!

なんで!?!ふしぎ!

食べられる?

キノコを触ってみたい！



お子さんたちと向かった先は…ヨーカドー！



たくさんのキノコの中からホワイトしめじ・エリンギ・キクラゲを購入。



帰り道では「ツルツルしてる気がする」「たしかに」とキノコの触感を予想するお子さんたち。



いざ触ってみると…「ツルツルしてる！」

森の中で“あの”キノコを発見！？



このキノコ…



もしかしてタモギタケ！？



匂いは…「きのこの匂い！」



保育園に持って帰って調べてみよう！

"あの"キノコを見つけたい！



お子さんたちが探しているのは…暗闇で光るキノコ！黒い筒をのぞき込んで…



「光ってない！」



「ここにもキノコがあるよ！」



「どれどれ…ん～これも光らないね」



ひかるかな～??



「どう？光った？」



「ひかってないなあ」

他にもいろいろな活動に広がりました

キノコ図鑑



お子さんたちの提案により“食べられるキノコ図鑑”を作ることに。スーパーで見つけたキノコの絵や名前が載っているオリジナルの図鑑です☆そしてキノコ菌の実験にも新しい発見が…。お家で調べてきてくれたお子さんが“キノコ菌は目に見えない”ということをおもんに教えてくれました。驚いたお子さんたちはすぐに図鑑で調べ、フワフワの正体が“カビ”だと気づきました…。

きのこ探しの旅！



今日はきのこチームがきのこを探しに行きます！八百屋コウタにきのこを探しに行きましたが…なんとお休み！そこで急遽探しに行く場所を変更しクリエイティブに！



きのこリストを見て今日は“ぶなしめじ”“しいたけ”“なめこ”を探して買うよ！



「これは何？漢字で読めない！」保「これはまいたけって書いてあるんだよ！」「まいたけはリストに書いてあるかな？」見てみると…「書いてある！そして買ってあるみたい！じゃあ今日は買わない！」



「見て！これってぶなしめじ？」保「これもぶなしめじだよ！」

しいたけクッキング🍄



久しぶりの包丁！



今日のメニューは“しいたけのホイル焼き”



胞子を見てみよう！



実験準備。



今日使うキノコは…しいたけ！まずは竹串にしいたけを刺して…



箱に立てる。



暗い場所でライトを当てたら準備OK！

ドキュメンテーションを
活用して感じていること

写真だから伝わる

まだかな～



いろいろな角度から観察するお子さんたち。
キノコはまだ生えていませんでした…。



「なんか液体がでてきた…！もしかして図鑑で見た
やつ…？」



キクラゲは図鑑を見て存在を知りました。不思議な
見た目にお子さんたちも思わず「なんだこれ！？」

保護者との共有・子ども同士の共有に役立つ

ひかるきのこってどこで見れるの？



「ばにゆうこうえん？」「みずべのがっこう？」「きさわのもり？」「はちまんやまこうえん？」「いったことないところいってみたいな～」

おこさんたちがしていることは…①ひるまはしろくて、よるはひかる！②もりのなかで見れる！

光るキノコはお子さんたちの中で「そう簡単には見られないキノコ」という存在になっています。それでもやっぱり見てみたい！ということで…光るキノコの情報を集めています！何かあれば保育士、またはお子さんに伝えていただくと嬉しいです！



園内だけでなく、園外の人とのつながりも

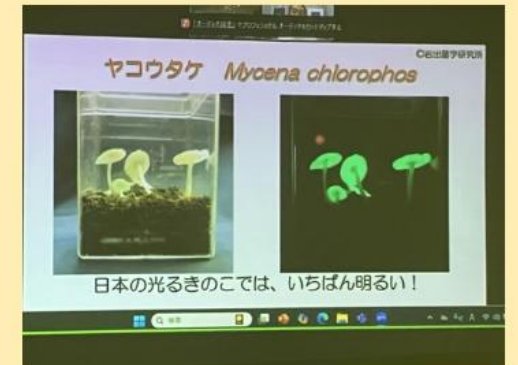
光るキノコについて聞き込み調査！



「光るキノコ、どこにあるか知ってますか??」
「大山大山でキノコを見たことがあるよ」

「じめじめして、光るキノコがある場所知ってますか?」
「水辺の楽校や土手はどうか?」

きのこ研究所



保育の振り返り



- ◆ 短時間でも**毎日**話して、翌日の保育に活かす
- ◆ **月案を検討するとき**の振り返りとしても活用

アジェンダ

時間	内容
11:10~	セミナー概要・登壇者紹介
11:15~	「記録は、保育を育てているか？」(大豆生田先生)
11:25~	きのこのブームから ～子どもの姿が見えてくる保育記録 事例～ (平塚保育園 上田先生)
11:35~	パネルディスカッション
12:05~	まとめ(大豆生田先生)

パネルディスカッション テーマ

- ◆記録は保育を育てているか
(保育者、子どもの変化、保育への影響)
- ◆園内のマネジメントで心掛けていること